

山岳科学総合研究所 友の会公報

2012年5月 第4号



穂高の山容を映す大正池周辺も若緑が美しい季節です

もくじ

「南アルプスの山塊に学ぶ」第2回現地研修会報告	2
会員リレーコラム	4
・三浦方也 「南アルプスの紹介」	
・松尾正徳 「第2回現地研修会「南アルプスの山塊で学ぶ」に参加して」	
上高地クエスチョン	5
2012年度友の会通常総会のご報告	6
お詫びとお知らせ	6
編集後記	6

「南アルプスの山塊に学ぶ」第2回現地研修会報告

5月12・13日、友の会第2回現地研修会を開催しました。その概要を報告します。

12日 季節外れの寒さに驚きながらも五月晴を期待しつつ、松本平を後にしてバスは大鹿村へと向かいました。

気分は『おとなの遠足』モードのバスハイクに、みんな和やかさの中に期待があふれています。松川ICを降りて天竜川を渡ると道は細くなり、小渋川沿いにダムをすぎたあたりからはセンターラインの無い道路となりました。

迫りくる山の斜面の鮮やかな新緑に感動しつつ、大鹿村大河原の中央構造線博物館につきました。

9:30 早速「河本先生」の講義をお聞きしました。

移動するプレート、沈み込むプレート、地球内部の熱い循環と付加体の岩石のお話はお昼まで続き、熱心な質問も多数ありました。

予約の食堂に移動して昼食、今度は「山塩」誕生の秘話を興味深くお聞きしました。更に大西公園に移動してのS36年の集中豪雨による崩壊現地でのお話。(マイロナイト)

その後「安康路頭」に狭い道を進んで中央構造線の現場と岩石について河原での講義。驚いた野生の狸に笑いながら15:30まで熱心なお話へろへろの会員でした。

中央構造線をたどり狭い道を地蔵峠に登り詰めて、今度は上村側の谷底まで下ります。

矢筈トンネルを越えて喬木村に抜け「風の学舎」にようやく到着し、待ち構えていた三浦さんたちの歓迎を受けました。

風の学舎では、「飯田自然エネルギーネット山法師」の中島理事長の挨拶の後、平澤事務局長から化石燃料のハウス「風の学舎」の説明を伺いました。



平澤さんから風の学舎の設立趣旨と環境について話を聞く

夕方からは手分けして夕食の仕込みをしました。この日のメニューは煮込みハンバーグ。素敵なお展望の「風の学舎」で交流は深夜まで続きました。

翌日も天気にも恵まれ、みんなで朝食をいただいた後、出発。4月の講演会にお越しいただいた坂本先生と合流し、これもまた狭い道を研修場所に向かいました。



活断層の上で動いている中央構造線の説明



坂本先生を囲んで
「ハイランドしらびそ(標高2000m)」にて

御池山クレーターの目前で、坂本先生から解説していた
だき、4月の講演と今回の現地研修会で大変よく理解でき
ました。坂本先生が30ほど年前に、地形からクレーター
ではと疑問を持ち、その後継続した緻密な調査によってや
っとクレーターと認定されたそうです。衝突は3万年ほど
前と言われていますが、年代や衝突温度等調査はまだまだ
続くそうです。先生の熱意がひしひしと伝わって感動しました。



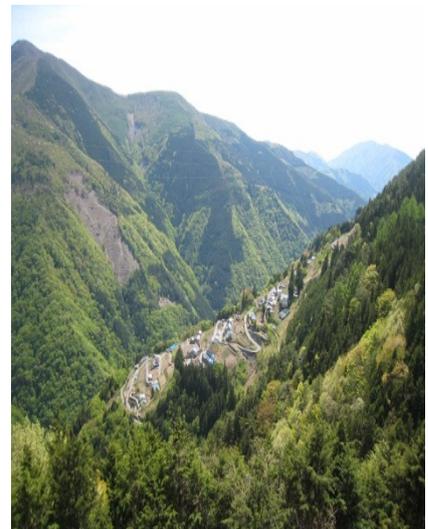
さらにこの日は偶然に「ハイランドしらびそ」で坂本
先生の監修によるクレーター展示室が、オープニングセ
レモニーを迎えていました。飯田市の久米原産経部長、
菅沼観光課長等が参列していました。友の会のメンバー
もギャラリーとなってセレモニーを盛り上げました。先
生の手による展示場は大変興味深く分かりやすく、これ
から「しらびそ高原」の観光スポットになるでしょう。

さらにここから南アルプスエコーラインを下って「に
ほんの里」100選にも選ばれ、地元の人たちが「日本の
チロル」と称して観光振興にも力を入れている旧上村下
栗の里に向いました。

地元の皆さんが経営されている蕎麦屋で昼食後、「耕
して天空に至る…下栗の里」を俯瞰するビューポイント
まで往復小一時間散策しました。

最大斜度 38 度の斜面に居を構え何百年もの間、畑作
を営んできた人々の思いは一体何だったのだろうと、考
えずにはいられませんでした。つよい人間の生命力を感じ
ました。

16 名を載せたマイクロバスは肝を冷やしながらか下栗
の里を下り、途中でお世話になった先生や休日返上で案内していただいた飯田市の職
員の方とお別れし、夕刻無事松本に帰着しました。



「事を成す」ということは並大抵のことではない。未知のものに挑み一定の成果を
出すためにまず仮説をたて、これを証明するため長い時間をかけ、途絶えることのな
い忍耐と根気を必要とする。

坂本正夫先生はまさに三十余年ひたすら取り組んで今の成果を出された。一研究者
の執念ともいえる。だから、現地で話をされる言葉に説得力がある。総会で講演をい
ただき、現地を確認するといった理想的な形での現地研修会だったと思う。

今回の南アルプス現地研修会では坂本先生の話のほか、中央構造線エリアジオパー
クの一部を見学して見聞を広めると同時に、この地域を愛する多くの皆さんの心根を
感ずることができるなど、中身の濃い研修会でした。ご協力いただきました会員の皆
様に御礼申し上げます。

リレーコラム



南アルプスの紹介



友の会の皆様こんにちは、伊那谷・飯田の三浦です。

最近、世界遺産登録に向けての活動や、日本ジオパーク（2008年登録・中央構造線を含む）、リニア新幹線の貫通横断（2027年開通予定）、三遠南信自動車道などで注目を浴びている南アルプスを簡単に紹介致します。

“南アルプス”というのは通称で、本来の名称は“赤石山脈”です。山脈の頂部で四万十帯の鉄分を含んだ名前の由来の「赤色チャート」が多く見られます。先日“御池山隕石クレーター”で御講演頂いた坂本先生も赤石山脈という呼び名にこだわっています。地元の小・中・高の校歌では赤石山と歌われ、子供の頃から赤石山脈と呼称してきました。

長野県、山梨県、静岡県に跨って、南北約100kmを超え、甲斐駒・鳳凰・白根・赤石山系の3000m峰が連なっています。



地質的には、尖峰を持つ北アルプスや中央アルプスの火山性造形と異なり、200万年ほど前から海底が隆起したもので、白亜紀のアンモナイトやサンカクガイの化石が出る地層が存在します。現在でも年に4~5mm上昇しているそうです。10万年もすれば富士山より高くなるかな？

北アルプスのように侵食が進んでいないため稜線が比較的平坦で、高山植物群落（お花畑）や鬱蒼とした森林植生が特徴となっています。調査・観察すべきところが沢山あります。



話題の世界遺産登録やリニア新幹線に伴う開発について多くの課題があります。自然環境保全

の観点から見守って行きたいと思っています。

赤石山脈と中央アルプスに囲まれた伊那谷は気候風土に恵まれ、春夏秋冬の自然はもとより文化、芸能、歴史が豊かで、ロマンに溢れています。興味を持たれる方、ぜひ、伊那谷・南アルプスに足を運んで下さい。

友の会副会長 三浦方也（まさなり）



第2回現地研修会「南アルプスの山塊で学ぶ」に参加して

岳都松本を起点に北アルプスを歩きはじめて5年、この駅に下りる都度心はかつて青春の日に還る。

松電は当時から2両、渋谷井の頭線の車両が今も続くが、大きな荷を担ぎ乗り換えを争う汚れた男たちの姿はない。終点から左に梓川を越えて島々の小さなバス停に下り橋場の宿に入るが、峠越えを前に明日に向けて満足な眠りの記憶はない。

バスに乗り換える新島々駅前にある、かつての駅舎に出会って懐かしさが蘇るし、島々を通ると反対の窓に今も幻の宿を見てしまう。そんな山行きが信州大学に学ぶ時間を頂戴してからというものの心が躍っている。

若い日に憧れの作家、その青春記の表紙に飾られた常念の山容に魅かれて思えば上高地、涸沢へ穂高へと北アルプスの深みにハマる。その作家が学んだキャンパスに今、正門から堂々と足を踏み入れる喜びは山行きをもまさる。

そしてこの度は二日に渡る現地研修への参加を許された。至れり尽くせり、有意義かつ内容濃い研修であったことは言を俟たない。雪の山頂を覗かせて南信州の奥座敷を巡り、何より情熱一途な研究者にお会いして感銘を受ける。宇宙遙か彷徨った挙げ句にこの星に迷い辿り着いた証を道なき崖に追う。

かたや地中深く遙か歴史の果てに地表に押し出された出会いを解き明かすお二人の姿には、岩石だけでなく人生をしっかりと磨かれた思いに我が身を省みてしまう。虚業サラリーマン人生40年近くを泳ぎ終えた身には余りに眩しく、あの日下栗の里に広がっていた皐月の空に似て清々しく感じたものである。

それ故に今後の研修会、講座を通じてここ信州、山岳に関する知識をいっそう深めこの身にしかと蓄える覚悟でいる。港町から岳都松本へ、もう次の講座に向けて出立を心待ちにしているこの頃である。

友の会会員 横浜 松尾正徳

?上高地クエスチョン?

上高地温泉宿のすぐ上流にあるいわゆるウェストン広場。今年で66回目を迎えるウェストン祭が6月第一日曜日に開かれる。

日本近代登山の父といわれたウォルター・ウェストン卿について、山にかかわる人なら名前くらいはご存知であろう。登山黎明期の頃を知りたいなら、ウェストンさんのことを学べばいろいろ面白いことが分かる。

彼の功績を讃え、日本山岳会がこの場所に設置したレリーフは有名で、撮影ポイントにもなっているが、このレリーフにまつわる秘話も伝わっている。

また、レリーフが上高地の成り立ちを伝える世界一若い花崗岩に設置されていることをご存じか。9月の現地研修会はこのあたりの話もあり楽しみだ。



2012 年度友の会通常総会のご報告

2012 年度友の会通常総会が 4 月 8 日 15 時から信州大学理学部 C 棟 2 階会議室で開催されました。その概要をご報告いたします。

会員総数 161 名の内、出席者数は 28 名、委任状 101 名で総会は成立しました。

○総会では、2011 年度決算の承認と、2012 年度事業計画並びに予算案が決定されました。ただし、付帯決議として研修会等で徴収する個人負担金を、事業収入（その他の収入）として計上し、決算に反映することとしました。

○規約の改正が提案され、第 8 条本文を次のように改正しました。

「会費は、入会時及び毎年 5 月 31 日までに当該年度分として次の額を納める。」

（改正に理由）

総会前で、予算が成立していない。年度跨ぎで、会計処理上重複し煩雑。

○運営委員の補充についても提案があり、会の運営を充実かつ円滑にするため次の 3 氏が補充選任されました。

島村芳太郎氏、松田俊雄氏、百瀬武氏、どうぞよろしく願います。

○会員の増員については、友の会の魅力を伝え、若い会員の増員をすべく会員の皆さんのご協力をお願いします。

お詫びとお知らせ

◎今後の会員現地研修会について

6 月に予定しておりました第 3 回現地研修会は、諸般事情により開催を延期いたします。ご案内をお送りし、すでに一部の方からはお申込みをいただきました中、誠に申し訳ございません。ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

振替開催日は 9 月 8・9 の予定ですが、詳細は後日ご案内いたします。

7 月は梓川上流の水の中をのぞきます。こちらについても計画ができ次第お知らせしますので、どうぞお楽しみに。

◎会費納入のお願い

24 年度年会費が未納の方は、5 月末までに会費の納入をお願いいたします。

編集後記

5 月の現地研修会は南アルプスの南端、大鹿村や飯田市を訪ね、予想以上に充実した内容で目的を達することができました。友の会は、学びと親睦は折半くらいかなと思っていますが、もくろみ通りの成果だったと思います。

地元の三浦副会長また中村さんには準備や手配など大変お世話になりました。紙面をもってお礼申し上げます。

もうすぐ 6 月、春の花も終わり季節は新緑から深緑へと移ろってまいります。7 月には、友の会の現地研修会、研究所の「潤沢談話会」が計画されています。このよい季節、フィールドで学べる研修会にぜひご参加ください。

（友の会会報編集委員会）

山岳科学総合研究所友の会会報 第 4 号

発行日：2012 年 5 月 30 日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp